

エキスパートコースがもたらした自己成長への意識とその効果

Consciousness to the self-growth and the effect by the expert course attendance

東8階病棟 ○ 宮澤 有紀子

エキスパートコースという院内研修を受講することにより、看護師として自分が深めたい専門性について考え、助言や支援を受けながら実践能力を身につけていくのに有効であった。それは、目標をもち、それを達成するために必要なことを行動化することができたこと、その時の状況が目標とは程遠く感じ意欲が低下しても行動目標を修正していく事で、意欲を回復し取り組むことができたこと、他の受講生の実施をみて自分の実践を深めることができたことなどである。

キーワード：院内研修、看護の専門性、自己成長

I. はじめに

エキスパートコース受講をはじめた頃は、テーマも具体化されておらず2年後になりたい自分というビジョンを見出すにも時間を要した。時々意欲の低下を感じながらも、サポートを受け、修了を迎える現在は成果をあげ自己成長できたと感じる事ができた。この2年間を客観的に振り返り、自己成長への意識とその効果について考察する。

II. 研究方法

因子探索研究、遡及型調査、図表化による分析

III. 研究結果

看護師として様々な業務や役割を果たすことができるようになり、癌看護をテーマにしたエキスパートコース受講を勧められた。癌看護のエキスパートナースになりたいのかという疑問を持ちながらも受講する事が決まった。テーマや目標の設定に際し、指導者とのやりとりの中で、学生の頃からNSTに興味があり、それをテーマにエキスパートコースを受講したいと思うようになった。自分が何に取り組みたいのか、どのような方向を進んでいきたいのかを明確にすることができた。取り組まなければならないという義務感から、取り組んでいこうという動機づけが芽生えてきた。

NST をテーマにすることが決まり、アドバイザーが変更され、相談しながら最終目標を設定し一年目の行動計画を立案した。その際、中央 NST での研修と NST 療法士についての紹介があった。中央 NST で研修しながら栄養療法に関する学びを深め、エキスパートコース修了後に NST 療法士を受験したいという目標ができた。

一年目は病棟 NST 活動、中央 NST での研修、院内研究発表、院外の研修や学会への参加、病棟学習会の実施を計画し実施した。中央 NST のカンファレンスでの研修では、栄養療法の方策について経験上の見地から異論がありそれを表現しても、他者が納得するような表出ができず葛藤を感じた。そして意欲が低下してくる。エキスパートコース研修で今後どのようにすすめていくかを検討する事で意欲を取り戻した。また、院外の研修や学会に参加する中で、発表されている内容が十分理解できる事から自分の栄養療法に関する知識や経験は十分にあると判断し、2年目に NST 療法士試験を受けようと考えた。

二年目は NST 療法士・糖尿病療養指導士になること、公開講座の実施、院外の研修や学会への参加、院内研究発表、病棟 NST 活動・中央 NST 研修を計画し実施した。この中で思考と時間を費やしたのは公開講座の開催であった。具体的な内容や対象者の設定、講座の運営方法を決定するにはいくつもの企画と検討を必要とした。企画したものが現場で必要とされる内容であるか、聞き取り調査をする事をすすめられ実施した結果、ニーズは低いと感じ、企画を変更しニーズに即した内容で実施できた。聞き取り調査や公開講座の準備を自発的に行う事がなかなかできず、指導者からの状況確認やアドバイスで、進行していくことができた。

最終も目標を達成するために、行動計画を立案し実施した。助言や支援、他の受講生の実践を知る事で、NST のエキスパートナースになるという思いを持続し実践することができた。

IV. 考察

エキスパートコースの受講をすすめられた事は、自分になにかができるのか、したい事はなにかを考えるきっかけとなった。柔軟に対応したもらえる支援体制により NST をテーマに決め、意欲的に受講することができた。

実践していく中で疑問を感じ意欲を失う事もあったが、助言により、その思いに固執せず自分のできる事を考え実施する事ができた。

公開講座開催や研究発表をするにあたり、資料作成や効果的なプレゼンテーションの仕方等にトレーニングの必要性を感じていた。そのため、病棟学習会の開催と研修一年目で院内研究発表を行い検討した。そして助言や支援を受けながら公開講座や研修二年目の院内研究発表に取り組んだ。

以前よりもスムーズに実践する事ができ技術が向上した。

エキスパートコースを受講することは、自己成長への意識をもち専門性を高めるのに有用であった。それは、具体的な目標をもち、それを達成するために必要なことを具体化し行動化することができたこと、その時の状況が目標とは程遠く感じ意欲が低下しても、アドバイスをもらい、行動目標を修正していく事で、意欲を回復し取り組むことができたこと、他の受講生の実施をみて自分の実践を深めることができたこと、公開講座を実施する上で、具体的なアドバイスをもらい、取り組む事ができ学びを深める事ができたことである。

V. 結論

エキスパートコースという現場とは違う院内研修を受ける事は、自己成長を意識し実践能力を高めるのに有効である。